

地域住民の方の ネットワーク参加を目標に

地域包括ケアに向けた多職種連携ネットワークの取組

【大津北の方在宅療養ミーティング編】

OKミーティングも5年目
次のステップは地域住民の
意識を変えること

OKミーティングに参加している専門職の皆さんの間では「地域包括ケアシステムの構築」すなわち「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」という考え方が定着してきました。これを地域住民の皆さんといかに共有していけるかが今後の課題でもあります。「地域包括ケアシステム」の本意は、地域住民の皆さん一人ひとりが住み慣れた地域ですつと生きていくために必要な「自分自身のネットワークをつくる」ことです。

今回は、OKミーティングがこれまでに行ってきた勉強会や「地域包括ケア」を地域の住民の方へ啓発する活動について伺いました。

参加メンバーが講師となり
開催してきた勉強会

OKミーティングでは勉強会開催当初から参加者がどんなことを知りたいか意見を取り入れながら進めてきました。参加者に問いかけると「症例検討をしたい」「看取りやリハビリについて知りたい」「リハビリ職や薬剤師について学びたい」「ALS患者さんへの支援を共有したい」という活発な意見が今も後を絶ちません。そしてその答えは、参加しているそれぞれの専門職が持つていました。メンバー自身にテーマに沿った講演を行っていただき、小さなグループワークを通じて内容を咀嚼していく、その繰り返しの中で情報の理解と共有に努めてきました。



▲小チームでのグループワークの様子